

第24回「緑の環境デザイン賞」および第33回「緑の都市賞」の 受賞者決定について

第一生命保険株式会社（社長 渡邊光一郎）が主催する第24回「緑の環境デザイン賞」および特別協賛する第33回「緑の都市賞」の受賞者が決定しました。

「緑の環境デザイン賞」は、地域の美しい景観形成や人と自然が共生する都市環境の形成に寄与する緑化プランを公募のうえ優秀作品の表彰および助成を行う顕彰制度で当社および公益財団法人都市緑化機構が主催しています。1990年に創設され、これまでに全国39都道府県、139の地域で新たに緑地が誕生しています。

「緑の都市賞」は、緑の保全・創出活動に卓越した成果を上げている市民活動団体、企業等の民間団体、公共団体を顕彰し、これにより広く都市の緑化推進、緑の保全による快適で地球にやさしい生活環境を創出することを目的として1981年に創設された、内閣総理大臣賞を有する顕彰制度です。公益財団法人都市緑化機構が主催し、当社は今年度より特別協賛しています。

当社は環境問題への一層の取組強化として、緑の“計画”を助成・支援する「緑の環境デザイン賞」、緑の“実績”を顕彰・支援する「緑の都市賞」という2つの賞を一体的に運営することで、“都市の緑”に関わる環境保全活動を総合的に支援しています。

記

1. 「緑の環境デザイン賞」について
 - (1) 受賞者は5団体です。受賞者名は<別紙1>のとおりです。
 - (2) 表彰式は2014年5月に都内にて行う予定です。
 - (3) 緑化助成は、原則として2014年3月までに主催者側で植栽工事等を行い受賞者に引き渡す方法と、受賞者等が行う方法のいずれかで行います。
 - (4) 「緑の環境デザイン賞」概要は、<別紙2>のとおりです。
2. 「緑の都市賞」について
 - (1) 受賞者は10団体です。受賞者名は、<別紙3>のとおりです。
 - (2) 表彰式は2013年10月30日（水）に都内にて行います。
 - (3) 「緑の都市賞」概要は、<別紙4>のとおりです。

第24回「緑の環境デザイン賞」審査結果

第24回「緑の環境デザイン賞」は、2013年4月1日から7月31日にかけて緑化プランの作品募集を行いました。その結果、全国から16点の応募があり2013年10月16日の審査会において次の作品の受賞が決定しました。

◎国土交通大臣賞（2点、副賞 緑化助成）

応募者名	緑化場所	プラン概要
豊島区立仰高小学校	豊島区立仰高小学校	樹齢70年のクスノキを緑地(里地里山ビオトープ)の象徴に、地域性種苗を用いて緑化を計画。水面や蜜源植物等により多様な生き物を育む場を創出し、子ども達の環境学習に資する緑地づくりを行う。
特定非営利活動法人 石山名月の会	石山寺参道	紫式部が源氏物語を起筆した地として知られる「石山寺」の参詣道に、源氏物語等に由来する植物等をはじめ、絶滅が危惧される植物の保全育成をしながら「石山紫の道」の歴史性を演出する。

◎緑化大賞（3点、副賞 緑化助成）

応募者名	緑化場所	プラン概要
社会福祉法人共育会 メリーランド保育園	メリーランド 自然体験・交流の森	保育園・高齢者福祉施設(建設予定)に隣接する地にエノキ、クスギ等の昆虫の食餌植物の森を創出し、子ども達が植物や昆虫と身近に触れ合える場とする。お年寄り子ども達の交流が生まれ、野外活動の舞台となる緑地づくりを行う。
社会福祉法人得雲会 青松こども園	青松こども園	敷地内の暗く鬱蒼(うっそう)とした森に手を入れ、多様な生物を育むことを目指す。環境学習の場となるビオトープを創出するとともに、コナラ、アベマキ、エノキ等地域性に配慮した樹種を、地域子ども達とともに植樹する。
あけもどろ緑の会	旭ヶ丘公園	対馬丸記念館に隣接し、沖縄戦で犠牲となった学童の慰霊碑「小桜の塔」がある地に、以前のようにオオゴマダラが舞う平和の杜を創出することを目指す。戦争の記憶・平和への祈りの継承とともに緑地保全を地域とともに取り組む。

第24回「緑の環境デザイン賞」の概要

1. 基本構成

- (1) 全国から緑化プランを募集し、優秀作を表彰する。
- (2) 表彰された優秀作について、プラン実現のため緑化助成を行う。

2. 募集内容

- (1) 緑化プラン 地域の美しい景観を形成すると同時に、ヒートアイランド緩和や生物多様性保全などの緑の持つ環境保全機能によって人と自然が共生する都市環境の形成に寄与するもの。
※学校等の緑化プランについては、教育の面で役立つものも対象とする。
- (2) 場 所 公有地、民有地を問わず、小規模であっても公開性があり、都市計画区域内にあること。
※学校等の応募については子供たちの安全を考慮し公開性が低いものであっても対象とする。
- (3) 植 栽 等 緑化助成による植栽等は、形状として一団、もしくは列状であること。
- (4) 土地の所有 応募者と土地の所有者または管理者が異なる場合は、土地所有者または管理者から緑化プランの実現に関して同意が得られる見通しがあること。
- (5) 応 募 者 公益法人、特定非営利活動を行う団体、学校、商店組合、町内会、事業所等の法人や任意団体、地方公共団体、公団・事業団・公社、区画整理や再開発を行う組合等の団体及びこれらと同等以上の団体であること。
- (6) 募 集 期 間 2013年4月1日～7月31日

3. 審査及び表彰

- (1) 審 査 審査会により受賞作品を決定
- (2) 表 彰 国土交通大臣賞 2点以内 賞状及び副賞（緑化助成）を贈呈
緑化大賞 数点 賞状及び副賞（緑化助成）を贈呈
- (3) 表 彰 式 2014年5月予定（東京都内ホテルにて）

4. 緑化助成

- (1) 助 成 方 法 緑化助成工事は主催者（公益財団法人都市緑化機構）が行い受賞者に引き渡す方法と、受賞者が行う方法のいずれかによる。
- (2) 助 成 範 囲 土地の造成等は含めず、樹木等の植栽を主体とする。
- (3) 管 理 引き渡し後の樹木等の日常的管理は基本的に受賞者等が行う。
- (4) 助 成 金 額 1団体の助成金額は上限800万円

5. 審査委員

- | | |
|-------|----------------------------|
| 審査委員長 | 進士 五十八（東京農業大学名誉教授） |
| 審査委員 | 赤坂 信（千葉大学大学院 教授） |
| | 石井 喜三郎（国土交通省 都市局長） |
| | 上村 多恵子（京南倉庫株式会社代表取締役社長・詩人） |
| | 鈴木 誠（東京農業大学 教授） |
| | 外山 衆司（株式会社産業経済新聞社 専務取締役） |
| | 森 ミドリ（音楽家・エッセイスト） |
| | 渡邊 光一郎（第一生命保険株式会社 代表取締役社長） |
| | 武富 正夫（第一生命保険株式会社 執行役員） |
| | 宮下 和正（公益財団法人都市緑化機構専務理事） |

(敬称略五十音順)

6. 主催・後援・協賛・協力

- (1) 主催 第一生命保険（株）、（公財）都市緑化機構
- (2) 後援 国土交通省、環境省、全国知事会、全国市長会、全国町村会
- (3) 協賛 (一社)建設広報協会 (一社)日本公園緑地協会
(一社)日本造園建設業協会 都市緑化基金等連絡協議会
- (4) 協力 (株)フジテレビジョン、(株)産経新聞社
(株)ニッポン放送、環境緑化新聞

第33回「緑の都市賞」審査結果

第33回「緑の都市賞」は、2013年4月1日から7月31日にかけて募集を行いました。その結果、全国から40点の応募があり2013年9月19日の審査会において次の作品の受賞が決定しました。

◎内閣総理大臣賞 [1点 副賞20万円 (活動助成金) ※]

部門	応募団体名	概要
緑の市民協働部門	サンシティ管理組合	団地内で、加齢した街と人と樹林を再生し、常に美しい緑の森が維持されるよう「人と森の若返り」を行う。維持管理が迅速に効率よく実施され、住民の満足する街の森づくりを展開している。

◎国土交通大臣賞 [3点 副賞15万円 (活動助成金) ※]

部門	応募団体名	概要
緑の市民協働部門	光風台 花と緑の会	団地周辺の荒地を整備し、平坦地には花壇を作り、斜面地には桜やツツジをはじめ多種の樹木を約2,500本植樹するなどして美しい森づくりを進めている。現在も毎月維持管理を実施している。
緑の事業活動部門	アサヒビール株式会社神奈川工場	工場敷地の50%を緑地とし、樹木の養生管理をはじめ、動植物や昆虫類の生態系を含めて幅広く環境に配慮した管理を実施。敷地内にある「アサヒビオガーデン」は生物の観察会のイベント場所として定着、また1,600本の桜を植栽し観光名所となることを目指すなど、地域とのコミュニケーションを図っている。
緑のまちづくり部門	鳥取市	公園愛護会と協働で町区公園などの植栽の手入れやミニチュア花壇の設置などを実施する他、市民と行政が協働で芝生化を行い緑化促進や子供の体力向上、健全育成などに貢献している。

◎都市緑化機構 会長賞 [3点 副賞10万円(活動助成金)※]

部門	応募団体名	概要
緑の市民協働部門	特定非営利活動法人 加治丘陵山林管理グループ	人と自然の「ふれあいの場」の共有、環境の保全と子どもの健全育成を目的として山林保全活動を実施。行政との協働による協定も締結し、町のシンボルとして、地域の子孫のためにさらなる森林整備を進めている。
緑の事業活動部門	舞多聞エコクラブ 神戸芸術工科大学 独立行政法人都市再生機構 西日本支社	ゴルフ場の跡地に、ゴルフ場の緑や地形を活かして美しい町並みと豊かなゆとりある住宅地を創造。また市民参加型のコミュニティデザイン、多様なライフスタイルやライフステージに応える住まいの提供、大学と連携し入居後もコミュニティ活動をサポートするなど様々な事業を展開した町づくりを実施している。
緑の事業活動部門	本田技研工業株式会社	工場建設に際し、工事による自然環境への影響を回避、最小化すると共に、新たな自然環境(ビオトープ)を創出。ビオトープと既存の自然環境を維持管理することで、荒廃状態であった里地里山を再生し多様な生物を育む環境の保全を図っている。

◎奨励賞 [3点 副賞5万円(活動助成金)※]

部門	応募団体名	概要
緑の市民協働部門	山法師の会	地域の有志で大興禅寺の里山を保全する会を立ち上げ、里山保全と緑化活動の取り組みを開始。40種類の椿を植樹し「椿と四季ざくらの里」を目指すなど、地域の高齢者から子どもまでみんなが四季折々の花木を楽しめるふれあいの場を提供している。
緑の市民協働部門	東京都港区立青山小学校	教員、児童、保護者で、「青山里山プロジェクト」という名のもと、屋上で緑化活動を実施。屋上は、環境推進の場、収穫・作業体験を通じた交流の場となっている。また収穫した野菜は近隣のレストランに提供している。
緑の事業活動部門	ダイキン工業株式会社	美しい国土を象徴する「白砂青松の風景」、希少な植物種を含む「海浜砂丘の植生」を次世代に引き継ぐため、グローバル研修施設にふさわしい「世界に誇れる、自然を活かした環境の保全・再生・創出」をコンセプトに天然のガーデンといえる自然園を整備している。

※ 副賞の活動助成金は、「緑の市民協働部門」の受賞団体のみが対象となります。

第33回「緑の都市賞」の概要

1. 基本構成

- (1) 緑化や緑の保全の実績と成果をあげている団体等を顕彰する。
- (2) 市民協働部門については、活動助成を行う。

2. 募集内容

(1) 緑の市民協働部門

応募資格： 主に市民団体（町内会・自治会等の地縁団体、NPO、学校の教師・児童・PTAの活動、病院の職員等）

内 容： ボランティアを基本とした緑化活動で、地域の社会や環境へ貢献するもの。

(2) 緑の事業活動部門

応募資格： 主に民間事業者

内 容： 民間、公共を問わず都市の緑の保全や創出を事業活動またはその一環として取り組んでいるもの。（例：都市開発事業における緑地の保全・創出、工場・業務ビル・学校・マンション等の緑化等）

(3) 緑のまちづくり部門

応募資格： 市区町村

内 容： 都市全般の緑化に取組み、その成果をあげているもので、地域の個性を活かした緑化を展開しているもの。

(4) 募 集 期 間 2013年4月1日～7月31日

3. 審査及び表彰

(1) 審 査 審査会により受賞作品を決定

(2) 表 彰 ・ 内閣総理大臣賞 1点 [副賞20万円（活動助成金）]
・ 国土交通大臣賞 3点以内 [副賞15万円（活動助成金）]
・ 都市緑化機構会長賞 3点以内 [副賞10万円（活動助成金）]
・ 奨励賞 若干 [副賞5万円（活動助成金）]

※副賞はいずれも「緑の市民協働部門」の受賞団体のみ対象となります。

(3) 表 彰 式 2013年10月30日（ニッショーホールにて）

4. 審査委員

- 委員長 樺山 紘一 (印刷博物館 館長)
- 委員 石井 喜三郎 (国土交通省 都市局長)
- 石川 幹子 (中央大学 理工学部 教授)
- 井上 洋 (一般社団法人日本経済団体連合会 社会広報本部長)
- 仙田 満 (東京工業大学 名誉教授)
- 田代 順孝 (千葉大学 名誉教授 千葉大学グランドフェロー)
- 山崎 誠子 (日本大学短期大学部建築・生活デザイン科准教授)
- 涌井 史郎 (東京都市大学 教授)
- 渡邊 光一郎 (第一生命保険株式会社 代表取締役社長)
- 宮下 和正 (公益財団法人都市緑化機構 専務理事)

5. 主催・後援・特別協賛・協賛

- (1) 主催 公益財団法人 都市緑化機構
- (2) 後援 国土交通省 総務省 環境省 全国知事会 全国市長会 全国町村会
- (3) 特別協賛 第一生命保険株式会社
- (4) 協賛 日本商工会議所
- 公益財団法人日本青年会議所
- 一般社団法人日本公園緑地協会
- 一般財団法人ランドスケープコンサルタンツ協会
- 一般財団法人公園財団
- 一般財団法人日本造園修景協会
- 一般財団法人日本緑化センター
- 公益財団法人河川財団
- 一般社団法人日本建設業連合会